

2020年度 京都大学医療系一回生対象
早期体験実習 報告書

京都大学医学部医学科・人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科

2020 年度 京都大学医療系 1 回生対象 早期体験実習・報告書

もくじ

1. はじめに -----	2
2. 早期体験実習の目的と概要 -----	6
3. 学生による実習プログラム評価 -----	12
4. 受け入れ医療機関からのフィードバック -----	22
5. 協力医療機関一覧 -----	25
6. 編集後記 -----	26

1. はじめに

早期体験実習Ⅰは、京都大学医学部医学科・人間健康科学科・薬学部の一回生が参加する多職種連携教育として2013年度にスタートしました。今年度も、医療機関及び医療者の皆様のご協力の下、学生たちは未来の医療者の土台形成につながる体験をさせていただきました。お世話になった皆様に、心から感謝申し上げます。

特に2020年度は、コロナ禍による1回生の来学制限や授業オンライン化など大きな変更があり、この実習でも病院に伺って学修するという体験は断念せざるを得なくなりました。それでもこの実習の意義は変わりありません。学生たちは入学したばかりで、医療についての知識や経験がほとんどなく、「将来どのような医療者を目指すのか」「何のために大学で勉強するのか」などの点で学ぶ点は大きいのです。私たち3科は、コロナ禍で何ができるかを考えました。

早期体験実習では、①自分の目指す医療者への理解、②医療での多職種連携への理解、③患者の視点からの医療への理解の三点を柱としています。病院に伺うという手段はとれませんでした。たくさんの病院、たくさんの職種の方々の協力を得て、医療現場や医療プロフェッショナルたちの仕事にビデオを通じて触れることができました。そのなかで医療者としてのやり甲斐と厳しさを理解し、今後の学部生活でどのような医療者を目指し、何を学ぶべきかを掴んでくれたと思います。

病院やクリニックの医師をはじめとする職員の皆さまが、コロナで大変な困難のなか、新入生のためを思っていただき、ビデオの準備やオンラインでの語りなどきめ細やかなご指導をしていただきました。ご協力に、改めて深く感謝致します。

2021年3月1日

京都大学医学教育・国際化推進センター

小西靖彦

医学部人間健康科学科の学生と、今年度も早期体験実習に受け入れて下さり、心より感謝申し上げます。今年度は、COVID-19対策で、大変な1年間でしたが、その中で、オンラインで実習を行っていただいた医療機関の皆様、医学教育・国際化推進センターの小西靖彦教授はじめ関係者の皆様に、御礼を申し上げます。

医学部人間健康科学科は、組織改革、入試改革を行い、医療専門職資格を持たない学生も卒業する総合医療科学コースを新設し、今年度、第1期生が卒業しました。たとえ、将来、医療専門職資格を持たない学生にも、医学医療にかかわる研究や仕事を続けていくうえで、医学を学び始める時期での早期体験実習は、強い印象を残したと思います。また、これから医学、医療を学んでいく強い動機付けとなり、将来自らが目指す医療人について考える機会になることを期待しています。

今後も医学部医学科、薬学部と合同で行っていただく、早期体験実習は、自らの体験を、他の職種を目指す学生さんたちと語り合うことで、視野と人間関係を広げる大変、よい機会になったと思います。

学生の皆さんが、他では得がたい貴重な体験をさせていただいたことを、本誌を拝見して改めて強く感じました。COVID-19パンデミック期間中にも関わらず、このような機会を実現していただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

2021年3月29日

人間健康学科長

足立壯一

京都大学薬学部では、早期体験実習の一環として、1年次夏季に「多職種連携医療体験実習」を実施しています。

「多職種連携医療体験実習」では、以下の3つの目的を掲げています。

1つ目は、医療機関における実習を通じ、患者とコミュニケーションを取ることで患者の視点から見た医療、病院とは何かを理解することです。これから薬学を学び薬剤師や創薬研究者のリーダーとなる上で、医療現場を知り患者サイドの立場に配慮できる心を養い、医療に関わる一員としての自覚を高められることを期待しています。

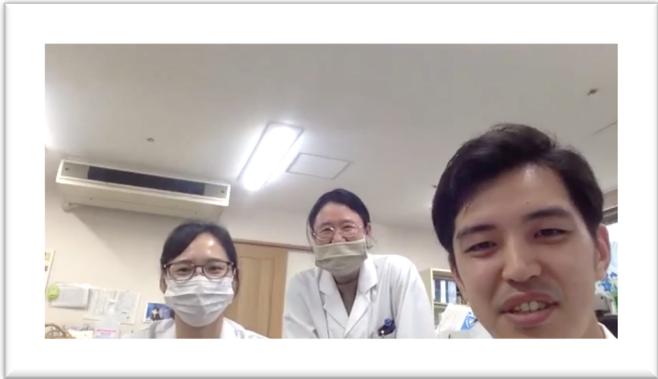
2つ目は、社会における薬剤師の役割や職能を体験的に学び理解することです。医療現場で薬剤師が抱える課題や問題点を知り、問題意識を持って薬学の将来を考えるきっかけになることを期待しています。

3つ目は、医師や看護師の職能と役割について、観察やインタビューを通して知り、多職種が連携してどのように医療を支えているかを理解することです。他の医療者の視点を感じ、チーム医療の中で薬剤師に期待される役割や能力とは何かを考えることを期待しています。

実習後には、医学部医学科・人間健康科学科の学生と合同で「事後ワークショップ」を開催します。事後ワークショップでは、学生同士が実習先での体験について意見交換を行い、上記3つの目的についての一層の理解を育んでいます。他の医療系の学生との協同作業は、様々な職種・部署から成り立つ医療現場や製薬企業など将来の活躍の場で、異分野・異業種による創発的な議論の進め方を考える第一歩にもなっています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療現場での実習を行うことが適いませんでした。しかしながら、医療現場の動画やZoomオンラインセッションを通じて、多くの医療機関の先生方から学生の教育・指導を頂きましたお陰で、学生は医療機関の先生方にふれあい、多くのことを感じ学ぶことができました。先生方の献身的なご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。

2021年3月1日
京都大学大学院薬学研究科長
加藤博章



2. 早期体験実習の目的と概要

本実習は、旧「外来患者支援ボランティア実習」を改編して2013年度から行われていたものであり、京都大学医学部医学科及び人間健康科学科、薬学部の一回生を対象としています。今年度は、医学科108名、人間健康科学科24名、薬学部21名が参加し、全国の14の病院のご協力をいただき、実習をさせていただきました。

今年度は新型コロナウイルスの影響のため、各医療機関に作成いただいた動画による学習とZoomを用いたオンラインセッションによる実習となりました。

今年度の早期体験実習の目的は、次の3つにあります。

1. 医療者の仕事を理解する

自分が目指す医療者の仕事について、自分で調べたり、様々な病院の医療者からのメッセージをもとにして、どのような医療者・研究者になりたいかを考えます。

2. 医療における多職種連携を理解する

学生は、将来医療者として協働する他職種がどのような仕事をしているのか、どのようにしてチーム医療に取り組んでいるのかを理解することを目指します。このことを通して、自分が目指す医療者に何が求められているのかも掴むことを目指します。

3. 患者の視点から、医療・病院を理解する

社会や患者の視点からみた医療・病院とは何かについて、興味や問題意識に沿って調べたり、他の学生との対話を通して深めます。

これらの目的をもった実習を通して、学生には、高校生から医療専門職者の卵へと「移行」してもらうこと、すぐれた医療専門職者になるためにはどのような学習・成長が自分には求められているのかを、実感として理解してもらうこと、を期待しています。

以上の目的及び意図をもつ本実習プログラムは、次ページにあるスケジュールに沿って進められます。「Zoomセッション」や「事後ワークショップ」などの機会に、医学科・人間健康科学科・薬学部の学生が「多職種グループ」を編成して、実習を通して得たことや考えたことを共有し、上記3つの点について理解を深められるように工夫しています。

早期体験実習スケジュール

5月	<p>第一回 事前ガイダンス (実習目的の共有、「私の実習目標」の作成)</p>
6月-8月	<p>自己学習 (「私の実習目標」に関連したテーマについて調べる)</p>
8月	<p>第二回 事前ガイダンス (動画視聴の案内、医療者への質問の検討)</p>
8月	<p>医療現場の動画による学習 (各医療職やチーム医療など 27 本の動画を視聴)</p>
9月	<p>オンライン (zoom) での実習の実施 (現場の医療者との対話や質疑応答)</p>
9月末	<p>事後ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題レポートを持参し、グループで成果発表 ● チーム医療についてのグループ・ディスカッション



医療現場の動画による学習

11 病院から合計 27 本の学習用動画を提供いただきました。動画の長さは、5 分～25 分で、医師、看護師、薬剤師、検査技師、レントゲン技師、リハビリ職（PT/OT/ST）、チーム医療に関するものをそれぞれの医療機関にご協力いただきました。今回の実習はオンライン中心になりましたが、学生にとっては様々な医療機関の様子を知ることができたと思います。

<病院紹介>

- 【大阪府済生会野江病院】実習用動画
- 【金井病院】病院紹介
- 【大坂赤十字病院】病院紹介

<医師>

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】医療動画
- 【天理よろづ相談所病院】医師の働き方
- 【倉敷中央病院】研修医採用動画
- 【市立島田市民病院】医師動画
- 【滋賀県立総合病院】医師編

<看護師>

- 【兵庫県立尼崎総合医療センター】紹介動画（看護師）
- 【倉敷中央病院】看護部のご紹介
- 【仁和診療所】看護師の仕事
- 【市立島田市民病院】看護師動画

<薬剤師>

- 【天理よろづ相談所病院】薬剤部プロモーション
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（病棟薬剤師の 1 日）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（安心の監査システム）

- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（調剤のいま）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（曝露しない抗がん剤調製）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（救急センターでの薬剤師の活躍）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（手術室での薬剤師の活躍）
- 【倉敷中央病院】薬剤部紹介（若手薬剤師にインタビュー）
- 【仁和診療所】薬局薬剤師の仕事

<臨床検査技師>

- 【滋賀県立総合病院】臨床検査編

<レントゲン技師>

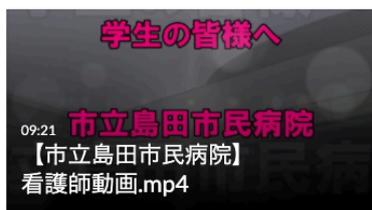
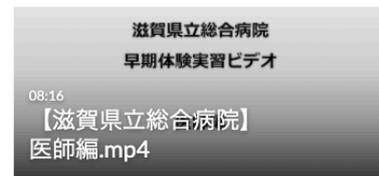
- 【京大病院】放射線部紹介動画
- 【京大病院】放射線部診療放射線技師動画

<リハビリ職>

- 【京大病院】リハビリテーション部紹介
- 【仁和診療所】診療所リハビリテーション

<チーム医療>

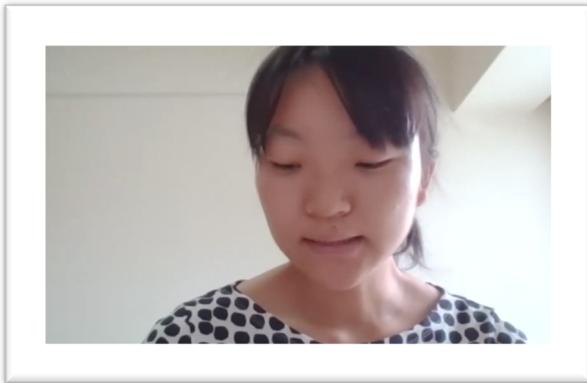
- 【京都桂病院】PCU_チーム医療動画



オンライン（zoom）での実習の実施

10 病院の先生方にご協力いただき、各回 15～20 名ずつの学生が参加して、医療現場のことや働き方のことなどの質問にお答えいただきました。

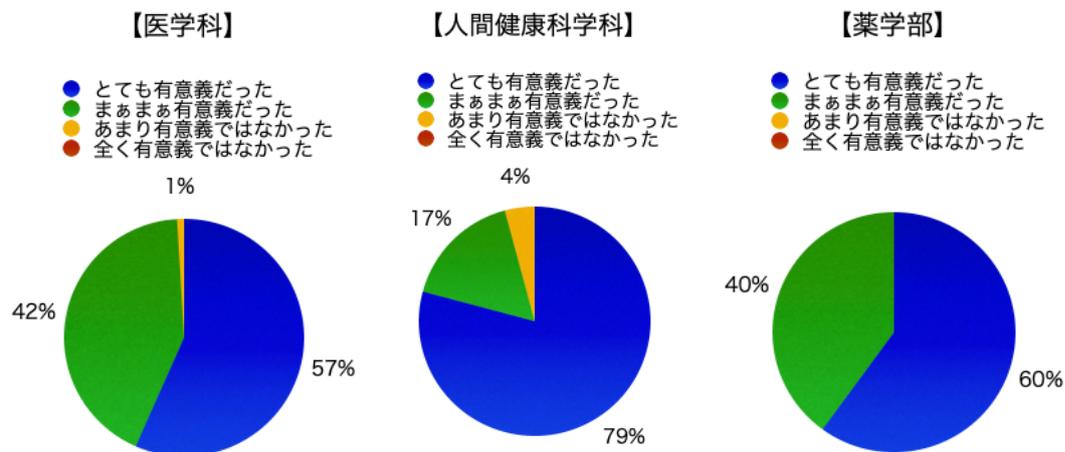
日程	時間	病院名	担当の先生
9/2(水)	13:00	倉敷中央病院	福岡敏雄先生(総合診療科主任部長・救命救急センター長)
9/3(木)	15:00	金井病院	松島和樹先生(家庭医療センター長) 南麻弥先生(総合診療) 戸城仁一先生(総合診療)
9/4(金)	16:00	済生会野江病院	相原顕作先生(呼吸器内科)
9/7(月)	10:00	京都桂病院	清水正樹先生(緩和ケア)
9/8(火)	14:00	滋賀県立総合病院	山本秀和先生(外科科長)
9/9(水)	15:00	大阪赤十字病院	住本真一先生(小児科)
9/10(木)	10:00	和歌山医療センター	吉田晃先生(小児科)
9/11(金)	14:00	天理よろづ相談所病院	八田和大先生(総合内科)
9/14(月)	12:00	豊岡病院 但馬救命救急センター	小林誠人先生(救命救急センター長)
9/15(火)	15:00	公立小浜病院	菅野元喜先生(外科部長)



3. 学生による実習プログラム評価

(2020年9月23日実施 授業評価アンケートから)

1. 実習全体を通して、今回の実習は、あなたの学びにとってどれくらい有意義でしたか。



【概要】

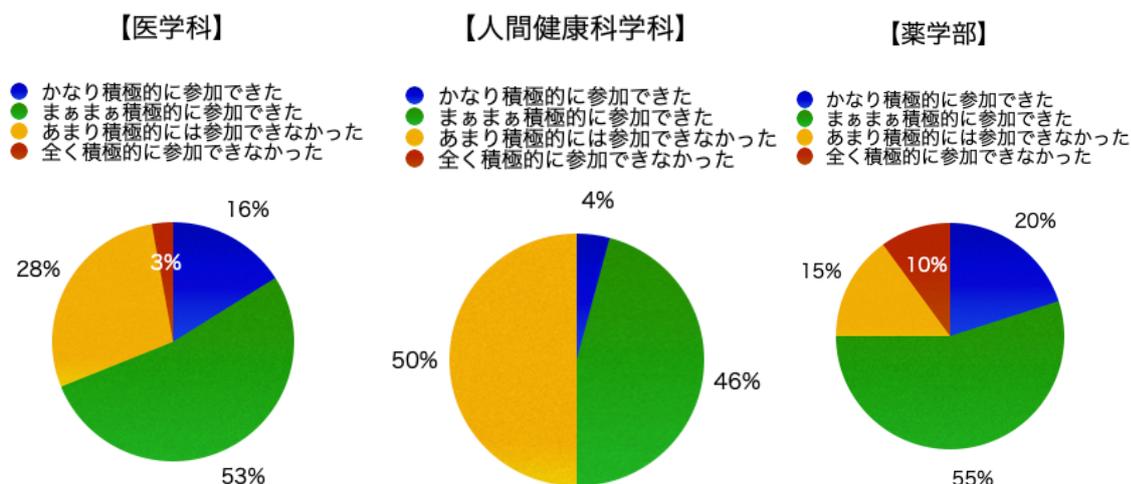
オンラインでの実習ではありましたが、95%以上の学生が有意義だったと振り返っていました。動画やオンラインセッションを通して、様々な病院や様々な医療職の現場のことにふれられたこと、現場の医療者の声を聴く機会ができたこと、他学部の学生と意見を交わしながら様々な視点に気づけたことが多くの学生の感想として挙がりました。一方で、病院の現場に触れられないことや患者さんの様子を見られないこと、オンラインゆえの限界に対する感想も一部ありました。

- ✓ 現場の医療者の声を聞くことができた。
- ✓ 普段見ることのできない病院の現場を動画を通して見ることができたため。
特に実際の診療の様子や手術の様子、カンファレンスの様子を見れたことが大きく印象に残った。
- ✓ 通常ならいくつもの病院を見て回ることは難しいが、動画により様々な病院とその特徴を知ることができたから。
- ✓ 医療現場の雰囲気や動画をオンラインセッションで感じることができたから。

- ✓ 特に病院の方との zoom セッションで得られたものが多かった。
- ✓ 動画やオンラインセッションでは自分の目指す医療職以外の方たちの仕事内容や考え方を知ることができたうえに、自己学習では自分の目指す助産師・周産期医療の分野について学びを深めることができたからです。
- ✓ まず自分が病院の方との zoom で得た考えをまとめる機会になったから、加えて他の病院で得た考えも知ることができたから。
- ✓ 多職種について、他の医療系学部の人意見を聞く機会は大変貴重だったから。また、医療について考える機会になったから。
- ✓ 病院の様子を知ることができたこと。自分が目指している医療者の具体的なイメージを持つことができたこと。
- ✓ 看護師や薬剤師などの仕事や、CT などの検査の概要といった他職種の基本的な部分を知ることができたから。実際の現場の雰囲気を感じられたから
- ✓ コロナでなかなか人と会うことが難しい中で、自身の目指す医療者について考えるきっかけとなったと共に、他職種を目指す学生と意見を出し合う機会ができたから。
- ✓ 他の医療系学部の人といっしょに授業を受けることはほとんどないが、実際の医療現場では様々な医師、看護師、薬剤師が連携することになるため、現場の感覚が少し味わえたような気がするから。
- ✓ 自分の意見に対する他の人の意見を聞くことができた。自分が気が付かないことを知ることができた。
- ✓ 他の病院のプレゼンテーションに参加した人の意見を聞くことを通してさらに見識が広まったから。
- ✓ コロナ禍で得にくかった他学部との交流機会が得られた。そして、将来のチーム医療に向けた多角的な見方を学んだ。
- ✓ 医学に対するモチベーションが向上したから。

- ✓ 医療の概観について他の学生と討論する事ができたが、現場で実感できると思われるような深い部分まではわからなかったため。
- ✓ 実際に実習に参加してみたいという思いもあったため
- ✓ 正直、病院の PR 動画から何を学ばよいかわからなかった。病院の先生との話し合いも、互いに戸惑いがあったと思う。
- ✓ 同級生の考え方はわかったものの、患者さんの視点から見た病院の姿が全く分からなかったから。

2. 病院との Zoom セッションにはどのくらい積極的に参加できましたか？



【概要】

今年度が初めての取り組みとなったオンライン（zoom）セッションですが、「まあまあ積極的に参加できた」と「あまり積極的には参加できなかった」という回答が大半になりました。オンラインで現場の医療者の方に質問するのは、学生にとってそれなりにハードルがあったかもしれません。自己学習や動画視聴をもとに質問を考えてもらっていましたが、何をどこまで聞いて良いのか戸惑ったり自信がなかった様子も伺えました。

- ✓ 質問したいことが多くあったため。
- ✓ 自分の疑問を解消したかったので、そのよい機会だと感じたから。
- ✓ 質問しやすい雰囲気を作ってくくださったから。
- ✓ 質問時間が長かったので参加しやすかったです。
- ✓ 現役医療従事者のお話を聞ける貴重な機会だから。
- ✓ 質問に対する先生の回答が的確であり、非常に議論を深めやすかった。
- ✓ 自分だけで考えても分からないような現場での雰囲気やそれまでの経験をもとにした考え方などを聞くことができる機会であったため。

- ✓ zoomなのでやりづらかった。
- ✓ 慣れていなかったから。
- ✓ 途中でしーん…となってしまった時が多々あったからです。
- ✓ 自分の質問に自信が持てなかった。
- ✓ 考えてきた質問を最初に話されたので質問しづらかったため。
- ✓ 自分の中で疑問がはっきりと形になっておらず、上手く尋ねることが出来なかった。
- ✓ 自分からすすんで質問をすることが出来なかったから。
- ✓ 対応していただいたのが医師の方だけで薬剤師の方がいなかったので少し聞きづらさがあった。
- ✓ まだ病院について深く知れておらず、何を知りたいのかがよくわかっていなかったから。
- ✓ 見知らぬ人(医療者とはいえほとんど接点がない人)と、何をとっかかりにして話せばよいのか、何が共通の話題なのか、互いにわからなかったと思う。気まずいの当たり前ではないか。
- ✓ 前半部分は参加できたのですが、ネット環境がよくなり、後半は参加できませんでした。
- ✓ 時間的に厳しかった。
- ✓ 実際に病院に行ってみたかったというのは正直なところ。

【コメント】

学生同士が対面で会う機会もなく、医療者とも対面でお会いすることがなかったために、グループワークや質問の難しさがあったかと思います。医療に関する基本的な知識も限られている段階で、質問するのはそれなりにハードルがあり、致し方ない面もありますね。今年度は学生だけではなく、教員側も現場の医療者側も手探りであったなか、ある程度積極的に発言などはできていたのではないかと思います。



3. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）を通して、その内容や対応で良かった（勉強になった、興味深かった）と感じたことは何でしたか？

- ✓ オンデマンドだからこそいろいろな病院・職種を幅広く見学する形で知ることができ、興味があった医師の仕事内容についても理解を深めることができた
- ✓ 病院内の、雰囲気伝わっていた動画が多くその点が良かった。
- ✓ 各診療科ごとに紹介してくださっているのが良かったです。
- ✓ 実際に患者と接する場面を見れたのがよかった。
- ✓ 実際に用いている機材や診療の様子、また手術など、実習ならではの映像を見ることが出来たこと。
- ✓ Zoomセッションが非常に有意義だった。
- ✓ オンラインセッションで質問した際、すごく丁寧に答えてくださったこと。
- ✓ 実際の医療の現場をzoomを通して見ることができたので良かった。
- ✓ リアルタイムで病院の様子をうつしてくださったので、雰囲気を画面越しでも少し感じることができた。
- ✓ 実際に医療を提供している方からお話を聞いたこと。
- ✓ 実際に医療者同士が話している様子をのぞけたのがよかった。
- ✓ 研修医の方もいらしゃったので、身近な話も聞いた。
- ✓ なかなかネットでは調べるのが難しい現場の声を聞くことができて参考になった。
- ✓ 大病院と小さい診療所の違いについて話を聞いたこと。
- ✓ 具体的な仕事内容が知れた事。
- ✓ 様々な病院の内面を見る機会はあまりなかったので、そういう機会を得ることができたのがよかった。個人的には緩和ケアの現場を見聞きしたことがほとんどなく知らないことばかりだったので勉強になった。
- ✓ 色々な専門職の方々が関わっていることが分かりました。
- ✓ それぞれの職種の方の一日の様子（毎日どんな仕事をどれくらいしているか）が具体的に分かったこと。
- ✓ 薬剤部の紹介がある動画を見ることが出来て良かったです。
- ✓ 医学生の頃の考えと現在のギャップについて先生から教えていただいたこと。
- ✓ 学生の間どう過ごすべきか教えていただいたこと。
- ✓ コミュニケーションの重要性。

4. 病院に協力いただいた実習（動画視聴・zoomセッション）でよくなかったと感じたことは何でしたか？改善してほしいことなどもあればお答えください。

- ✓ 病院見学風に病院内を見てみたかったです。
- ✓ もっと、「自分の病院ではこんな事をしています。こんなことができます。このような工夫があります。」といったような、病院内外で行っているようなこと、体験実習で経験できたであろうことについて発表して下されば、病院毎の違い、長所短所についての理解が深められたかと思いました。
- ✓ 動画が細分化されすぎている。
- ✓ 動画数が多くて見るのに結構時間がかかった。
- ✓ 忙しいから仕方がないのだろうがもう少し医者動画があるとありがたかった。
- ✓ 病院自体の説明や宣伝が入り、多職種連携から少し離れている場面があったこと。
- ✓ チーム医療が具体的にどのように行われているのかがつかみにくかった。可能であれば、1人の患者さんに対するチーム医療の一連の流れが記録された動画を配信していただきたかった。
- ✓ 患者さんやご家族の生の声をもう少し取り入れてほしかったのと、医療現場で問題になっている所や改善したいと思う所までは伝わってこなかったのもう少し伝えていただきたかったです。
- ✓ 専門用語などでうまく聞き取れない場合に単語の意味を調べることが出来ないのも、可能であれば字幕があると分かりやすくなると思った。
- ✓ もう少し具体的な仕事内容を説明するスライドなどを作って欲しかったです。
- ✓ Zoomセッションに他職種の方も呼んで欲しかった。
- ✓ 病院とのZoomで薬剤師がおらずききたい質問が出来なかった。
- ✓ 医者の方の意見しか聞けなかったこと。多職種なので、出来ればほかの立場の方の意見も直接聞きたかった。
- ✓ 私は看護コースなので看護師の話ももう少し聞けたらよかったと感じた。
- ✓ 看護師の仕事についてももう少し扱ってほしいと感じた。
- ✓ 忙しい部署の1つだからかもしれないが、薬剤部を紹介している病院が少ないように感じた。
- ✓ どうしても医師・看護師・薬剤師に内容が偏ってしまっていたため、リハビリテーション専門職などその他の医療スタッフや医療専門職に含まれない技術職とのかかわりなども知ればよりよいと思いました。
- ✓ Zoomセッションについて、いくつかの病院では、1人のみ(医師のみ、など)での発表が多かったようで、「多職種連携」をテーマとする本セッションの目的を完全には果たしきれ

ない気もいたしました。特に、患者や社会が求める医療、については動画学習のみでは難しいように思います。

- ✓ zoom セッションにおいて、現場の雰囲気を感じられた一方で周りの雑音が入ってしまいコミュニケーションがとりにくい部分があったように思う。また、理学療法士や作業療法士に関する情報を増やしてほしい。
- ✓ zoom セッションでは内科医の先生しか来られていなかったので外科について詳しい話を聞けなかった点。
- ✓ 自分の興味のある診療科の先生との zoom セッションがあったらもっと面白かったと思う。
- ✓ 他の診療科の先生の話も聞きたかった。
- ✓ 何回かに分けて行うなどして、複数の診療科の先生方に参加していただければ、尚良かったのではないかと思います。
- ✓ もう少し質問をする時間が欲しかった。
- ✓ 1 時間という時間が短く十分に質問することが出来なかったと思う。
- ✓ 限られた時間で対応してくださっているのに、質問がうまくまとまらず時間が押してしまうことになり迷惑をかけてしまったこと。発言に躊躇してしまったこと。
- ✓ 事前に受け付けていた質問に関して回答が欲しかったです。
- ✓ 質問しにくい雰囲気がどうしてもできてしまっていたこと。
- ✓ 今季はこのような状況で病院側に十分な時間を取ることができなかった部分もあると思うが、zoom セッションではもっと双方向のディスカッションを期待していたのであまり話し合うことができなかったことについては残念に思われた。
- ✓ 相手をよく知らない状態で質問をしろというのは酷ではないか。気まずくて当たり前だし、そこで質問をしないことを積極性がないと見なすのは、違うと思う。もっと事前に、どんな人と話をするのか、情報が欲しかった。
- ✓ 管理栄養士や診療情報管理士など、扱われていない職業の方の話も聞いてみたかった。希望する ZOOM セッションを選ぶために、各セッションの概要を示してほしい。
- ✓ 仕方ない一面もあるがオンライン関連で手間取っていたこと。
- ✓ 音量が小さい所がありました。
- ✓ 通信状況が悪くて聞き取りにくいことが多々あった。
- ✓ コロナの影響があるので仕方なかったが、できれば実際に現場に行ってみてみたい。
- ✓ 実際に対面で行くよりは情報量が少なかったことです。病院の雰囲気を「身をもって知る」ことができればもっと良かったです。
- ✓ 患者さんの声が聞けなかった。

【コメント】

■動画は様々な職種を紹介できるように、各病院に対してこちらで予め割り振って作成を依頼しました。また長すぎないように気をつけて依頼したため、たしかに本数は多くなり、動画が細分化していると感じた側面もあったかもしれません。チーム医療や患者さんに注目した動画があれば確かに理想的なのですが、プライバシーに配慮しながら動画を撮影するとしても限界があるのも事実です。学生にとっては、各職種の仕事はつかめても、医療全体やチーム医療の実際の現場をつかむというのは動画では難しい側面がありますね。

■Zoom セッションに関して、今回はお忙しい現場に配慮して医師の方と話すという形でお願いしていたため、多職種の人と話す機会は一部の病院を除いてありませんでした。来年度以降は、可能な範囲で医師以外の職種の人と一緒に Zoom セッションにご参加いただくと確かによいですね。また、様々な診療科の医師の話を聴きたいという要望もわかります。動画では様々な診療科の先生が紹介されていたと思いますので、動画で触れたり、自己学習で調べたりというのが現実的かもしれません。いずれにせよ、様々な診療科に興味を持つことは視野が広がりますし、よいですね。



5. その他、実習全体を通して、来年度への提案、要望などがあれば自由にお答えください。

- ✓ 特に配信して頂いた動画はとても勉強になりました。
- ✓ Zoom でも大きな成果を得られると思います。
- ✓ ズームでも勉強になるのでもし対面が来年も無理なら対面じゃなくてもいいかもしれないと思いました。
- ✓ 実際に病院実習がある場合でも、動画などにより他の病院の様子がわかったり、その病院の基礎的な情報が把握できた状態で実習ができるとより有意義な実習ができるのではないかと感じたため、病院の負担も考慮しつつ動画の提供は来年以降もあると良いと思う。
- ✓ 新しい感染が流行り実習が出来なくなっても勉強出来るように色々工夫して続けることが大事だと思うので今回の実習はかなり有意義な経験だとおもいます。自宅学習ツール開発は色んな面で役立つとおもいました。
- ✓ 対面での実習の再開を願ってはいますが、自己学習などは来年以降も継続してよいのかなと思いました
- ✓ この状況で病院の方々が様々な形で協力して下さったこと、非常に感謝しています！（病院への実習はやはり対面でやりたかったです、、）
- ✓ コロナの感染拡大の状況下でもこのような機会を設けてくださってありがとうございます。今年度は仕方ありませんが、来年度はなんとか実際に病院に行ければと思います。
- ✓ このコロナ禍でも、こうして他学部の学生の意見を聞くことができる機会を設けてくださり、とても良かったです。

- ✓ もう少し動画の種類があれば嬉しかったです。
- ✓ 実習に行かせてあげてください。
- ✓ 来年度は現地で実習を経験できるといいなと思いました。
- ✓ 仕方ないことではありますが対面の方が得るものは多いと思います。
- ✓ 対面でやればより良かったと思います。
- ✓ 事後ワークショップぐらい対面でも大丈夫ではないかと思った。小中学校やユニバですらやってるのに笑
- ✓ 事後ワークショップではzoomを介してだと喋り出すタイミングが掴めずどうしても積極的に発言しにくかったので、今年だけだとは思いますが、対面でやった方がいいと思いました。
- ✓ 慣れてないこともあり、初対面の方達といきなり意見や質問を投げ合うことが難しく感じてしまいました。出来るならば、グループワークをする前に、互いに軽く雑談等を行え

て、気楽に話し合えるようになってからグループワークに移させて頂ければもう少しは良い対談ができたのかもしれないと思いました。

- ✓ コロナが収まり次第、改めて病院実習の機会を与えてくださるとありがたいです。
- ✓ 来年や、それが無理な場合、別の時期の実施に切り替えるなどしてでも、実際に病院を訪れて行う実習を実施して欲しいです。
- ✓ これは実習とは呼べないと思う。補講という形で、後日、病院訪問などの機会を設けてほしい。
- ✓ 大変だったと思いますが、自身の予定を立てるために、日程を早めに教えて頂きたかったです。
- ✓ (薬学部の人数の関係で難しかったかもしれませんが、) ブレイクアウトセッションの人数は5~6人くらいの方が話しやすいと思います。
- ✓ この授業を薬学部を選択必修に加えて欲しいです。

【コメント】

■せめて事後ワークショップだけでも対面で開催できたらと考えています。人数を制限して数回に分けたり、感染対策をするなどして、対面で意見交換できる機会をつくる予定です。今回、オンライン開催ながらも、他学部の学生との意見交換が有意義だったという感想が多く挙がりました。三科合同で学ぶ貴重な機会なので、来年度は対面で開催したいところです。

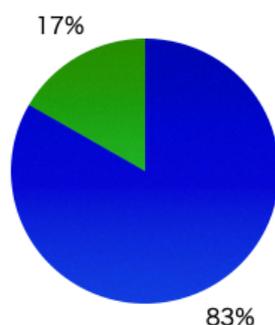
■病院を訪れたいとの希望、これは実習とは呼べないと思うという意見からも、実際の現場を見たかったという強い思いを感じます。医療現場の現状を考えると、患者さんの家族も面会が制限されているところも多く、簡単に学生を実習に送り出すことができない状況がしばらく続くと思います。Zoomセッションなどで、医療現場の方もおっしゃっていましたが、状況が落ち着いたら、ぜひ自分で病院に連絡して見学をするなどしてみたいでしょうか。多くの先生が、やる気のある学生の見学は歓迎してくれると思います。

4. 協力医療機関からのフィードバック

4-1 本実習（動画視聴+zoom セッション）は学生にとって有意義だったと思いますか？

【本実習は有意義か】

- とても有意義だと思う
- まあまあ有意義だと思う
- あまり有意義だと思わない
- 全く有意義だと思わない



【学生にとって有意義だったと考える理由】

協力いただいたほとんどの病院が学生にとって有意義な実習になっていたのではないかと回答いただきました。新型コロナウイルスの影響下で、可能な範囲で学生の学びを考慮した実習にさせていただけたと感じております。医療への第一歩を踏み出した学生にとって、現場の医療を感じたり、医療者の話を聴く機会はとても貴重な機会になったと考えます。

- ・ コロナ禍の中、医療への第1歩を歩みだした学生さんにとって、現場の職員の声をお届けできたことは大変有意義であったと思います。
- ・ 少しでも入学した実感を味わっていただけたのではないかと思います。
- ・ 現場での実習+面談には及ばないものの、それに近い体験は提供できていると思います。
- ・ 早期体験実習そのものと、コロナ禍の中での工夫。
- ・ まず、見学がないよりは断然よいと思います。逆に単なる見学よりも良い点もあるのではないかと感じました。

4-2 本年度の実習の良かった点をお答えください

- ・まず、当院のように地方にある病院にとっては移動などのお互いの負担が軽減されました。また、見学と違って聞きたいことを聞いてもらうので、こちらも絞った回答ができるのもよかったですと思っています。学生の思いや気持ちを感じました。
- ・単に現場を知るだけでなく、制限のある環境でも「柔軟に対処していくことの大切さ」を感じて頂ける企画であったと思います。今後、医療に携わっていく中で糧となる大変良い経験であったのではと思います。
- ・実習で実際に来られる場合（数名程度）よりも多くの学生におそらく視聴いただいたと思いますので、学生にとってより多くの病院について知ることができるメリットがあり、病院にとっても宣伝になったと思います。
- ・ハイブリッド（動画視聴+zoom セッション）
- ・コロナ下での最善の実習となったのではないかと思います。

4-3 本年度の実習の改善点についてお答えください

- ・zoom セッションでは指導医の先生との事前打ち合わせがあまりない状況で、当日に「講義」を依頼されていました。できれば、事前のセッションスケジュールを指導医の先生にお渡し頂ければ準備よく、学生さんにとってもより良い内容になったのではと思います。
- ・私の Zoom セッションでは学生が全体的に消極的な印象でした。個人的には参加人数が多すぎると思いませんでしたが、適正な人数については検討の余地があるかもしれません。
- ・Zoom セッションでの視聴環境の改善（当院の？）
- ・このようなセッションをコンパクトに行って、見学自体も3日程度にコンパクトにしてもいいのではないのでしょうか。お互いの負担が軽減されて、病院に行った時も「readliness」が高まった状態で行けるのではないのでしょうか。

【コメント】

Zoom セッションに関して、当日の講義のご依頼や質疑応答の対応など、十分な打ち合わせができなかったこと申し訳ございませんでした。Zoom セッションのスケジュール案について学生からの質問と併せて事前に共有するようにいたします。また、人数規模に関しては、150名近くの学生を割り振ると、1回あたり20名近くになってしまうのが現状です。回数を増やすことも考えられますが、発言しやすさを高める工夫を引き続きしていきます。

4-4 実習全体に関して、その他、自由にご意見をお願いします

- ・希望すれば多くの病院の様子がわかるので web 形式は今後も有益ではないかと思えます。
- ・今回は当方にとっては新たな試みであった為、良い経験でした。
- ・今回の試みは、初めての事も多く戸惑いもありましたが、一步踏み出した点に大きな意義があったと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

- ・ビデオについては、本気で作っていた薬剤部、お金をかけた看護部、研修医の好きに作らせていた研修医たち、とかなりクオリティにも方向性にもテイストも異なっていました。すみません。でも、うちの病院らしくていいかなと思ってそのままご提供しました。おおらかに解釈していただけたら幸いです。
- ・ビデオの撮影には病院の多くのスタッフにボランティアで協力いただきました。実習の趣旨を考えると多職種を盛り込むべきだったのかなとは考えておりますが、今回はこれが精一杯でした。

【コメント】

お忙しい中、多くのビデオ撮影をありがとうございました。

私たちも思っていなかった程、多様な動画を提供いただき、それぞれの職種の内容がよく学べたと思えます。今回、複数の医療機関にご協力いただけたことで、多職種をカバーできたと思えます。チーム医療や多職種連携が理解できる動画というのは、たしかにできれば理想ですが、説明や編集を含めて大変かと思えますので、現状の動画で十分ではないかと考えております。

5. 協力医療機関一覧

動画提供
大阪赤十字病院
大阪府済生会野江病院
金井病院
京都桂病院
倉敷中央病院
滋賀県立総合病院
市立島田市民病院
天理よろづ相談所病院
仁和診療所
兵庫県立尼崎総合医療センター

Zoomセッション
大阪赤十字病院
大阪府済生会野江病院
金井病院
京都桂病院
倉敷中央病院
公立小浜病院
滋賀県立総合病院
天理よろづ相談所病院
豊岡病院
但馬救命救急センター
和歌山医療センター

編集後記

本年度はオンライン中心での実習という形になりましたが、本学医学部及び薬学部の早期体験実習に関して、多大なご協力をいただきましてありがとうございます。新型コロナウイルスの影響下で、入学したばかりの学生にどのような機会を提供できるのか、また医療現場の負担を考えてもどこまでできるのか未知数な中での取り組みでした。そのような中で、新しい試みとして、様々な病院に医師、看護師、薬剤師をはじめとする様々な職種の学習用動画を作成いただき、Zoomセッションとして、約150名の学生を分けて、1回ずつ現場の医療者と対話する機会を設けさせていただきました。診療の負担も大きい中、このような試みに多くの病院にご協力いただきまして、重ねてお礼申し上げます。

オンラインでの実習において、患者さんのプライバシーに配慮する必要もあり、実際の病院を訪れた実習に比べて限界はあったと思います。学生の中にも、実際に病院を訪れて実習をしたかったという声は多く挙がりました。それでも、オンラインゆえの良さを感じる部分もありました。様々な病院から動画を提供いただけたことで、今年度は多様な医療機関の現場を知ることができました。また、今後、対面での実習に戻ったとしても、このような動画があることで、事前学習をしやすくなる可能性も感じられました。

新型コロナウイルスが落ち着いていない中、1回生を現場に出すのは引き続き難しいと考えております。今回は新しい試みだったこともあり、学生からも改善点や要望が多数挙がっておりましたので、それらを踏まえつつ来年度も実りある実習にできればと考えております。医学科だけではなく、人間健康科学科、薬学部と三科合同で学べるメリットを生かしつつ、多職種連携やチーム医療についても学べる機会にしていきますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

2021年3月1日

京都大学医学教育・国際化推進センター

京都大学医学部人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科

